

今週（3月28日から4月1日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週の無担保コールO/Nは週を通して0%未満のレートが中心となり、落ち着いた取引に終始した。前積み期間においてマイナス金利で資金調達していた先がマイナス金利での運用サイドに変わるなど、マイナス金利でオファーする先が増えた一方、ビッドサイドの数・調達量が全体として減少したため、無担保コールO/N加重平均レートは全体的に低下傾向となった。31日は取引量が減少する中、マイナス圏での出合いが少なかった事もあり、▲0.002%と若干上昇した。ターム物に関しては取り急ぐ環境に無く、▲0.01%近辺で散発的な出合いが見られるにとどまった。

固定金利方式の共通担保オペは30日に3M・15,000億円、31日に2W・8,000億円がロールオーバーされた。マイナス金利導入前は15,000億円のオペに札が集まる傾向が見られたものの、導入後は期間の短いオペに札が集中するようになり、それぞれ0億円（期落額1,100億円）、1,950億円（期落額5,900億円）という結果になった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は週を通じて、概ね▲0.100～▲0.085%程度の水準で推移した。▲0.090%近辺でのビッドが非常に厚く、その近辺の水準を中心に狭いレンジでの引合いが多く見られた。期末を越える未初物取引となる火曜日のS/N(3/31-4/1)も、▲0.095～▲0.085%の水準で推移し、落ち着いた地合いとなった。

SC個別銘柄では、10年335～342、20年153～156、30年46～50などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。特に10年340、341は週を通して品薄感が強く、締まった水準で取引された。

●短国市場

今週の短国市場は、発行が無く、年度末に伴うポジション調整の売りが一部で見られたものの、週を通して動意のない閑散なマーケットとなった。受渡日が新年度入りした後も、特段目立った動きも無く、来週の入札ラッシュを控えて様子見の展開が続いていた。週末の気配は、3Mで▲0.10%近辺、6Mで▲0.20～▲0.10%、1Yで▲0.25～▲0.15%となっていた。この水準では買い手が限定される為、やや軟調なマーケットが続いていた。

●CP市場

今週のCP市場は、入札ベースの週間償還総額30,000億円程度に対し、発行総額は11,000億円程度にとどまった。鉄鋼・機械・不動産・商社・ノンバンクセクター等、幅広い業種から大型の発行案件が見られたものの、決算期末を迎えたことで有利子負債削減の動きが強く、月末償還物が25,000億円まで膨らむなど大幅な償還増となった。3月末発行残高は12兆9,495億円と13兆円台を下回り、前年同月比で減少した（2015年3月末142,170億円）。発行レートは、投資家やディーラーの買いニーズが強く、a-1格以上の銘柄の大半が0%近辺での決着となった。

28日にはCP等買入オペがオファー額6,000億円を実施され、入札結果は平均落札レート▲0.428%、按分落札レート▲0.598%と、平均・按分ともに過去最低を更新した。市場全体の発行が細る中、対象銘柄も少なかったことで、応札額が6,449億円と少額だったことに加え、日本銀行が入札レートの▲0.598%を下限とし、▲0.647%以下を採用しなかったことから、落札額は5,304億円にとどまった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
3/28 (月)	17,134.37	△ 0.095	113.50	△ 0.007	△ 0.095	2,722,100
3/29 (火)	17,103.53	△ 0.090	113.61	△ 0.006	△ 0.095	2,725,400
3/30 (水)	16,878.96	△ 0.095	112.60	△ 0.007	△ 0.092	2,748,300
3/31 (木)	16,758.67	△ 0.050	112.63	△ 0.002	△ 0.093	2,754,500
4/1 (金)	16,164.16	△ 0.066	112.20	△ 0.006	△ 0.091	2,760,800

来週（4月4日から4月8日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
4/4 (月)	3月のマネタリーベース(日銀 8:50) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00)				2月の米製造業新規受注・出荷・在庫 3月のFRB 労働市場情勢指数
4/5 (火)	4月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50) 2月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 9:00)	TB3M 44,000億円 4/7発行	10Y 24,000億円 4/7発行		2月の米貿易収支 3月のISM 非製造業景況指数
4/6 (水)	2月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB6M 35,000億円 4/11発行			
4/7 (木)	日銀支店長会議 さくらレポート(=地域経済報告) 3月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50)	TB3M 44,000億円 4/11発行	流動性供給 4,000億円 4/11発行	交付税借入 10,500億円 4/15借入	2月の米消費者信用残高
4/8 (金)	2月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 3月の消費動向調査(内閣府 14:00) 3月の景気ウォッチャー調査(内閣府 15:00)				2月の米卸売売上高

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
4/4 (月)	1,600	▲ 5,000	▲ 3,400	全店共通(固) CP等買入 国債補充供給	▲ 5,900 ▲ 100 2,100	2,000	▲ 1,900	▲ 5,300	普通交付税 地方特例交付金 税・保険料揚げ
4/5 (火)	1,000	4,000	5,000	国債買入		5,200	5,200	10,200	
4/6 (水)	1,000	2,000	3,000				0	3,000	恩給
4/7 (木)	0	▲ 24,000	▲ 24,000				0	▲ 24,000	TB3M発行▲44000償還47400 10Y発行▲24000
4/8 (金)	0	▲ 2,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	
週間合計	3,600	▲ 25,000	▲ 21,400	—	▲ 3,900	7,200	3,300	▲ 18,100	

4/4は日銀予想、4/5以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は週初4日に税揚げ、普通交付税交付金の払い等の要因があり、7日は10Y発行に伴う不足日になると予想される。マイナスの政策金利導入により、財政・季節的要因に対する市場の感応度は高まったものの、今積み期間の足元金利に劇的な変化は起こりにくいと予想される。

短国市場は5日・7日に3M物、6日に6M物の入札が予定されており、概ね現状水準での入札が予想されるものの、立て続けの発行となることから相場動向が注目される。

CP市場は、6日にCP等買入オペがオファー額2,500億円と、先月発表の予定より1,000億円減額されて実施される予定となっており、前回よりも落ち着いた落札結果が予想される。

主要なイベントとしては、7日に日銀地域経済報告などが予定されている。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。